

2017 年度大学入試センター試験 解説〈地理B〉

第1問 世界の自然環境と自然災害

問1 正解は③

4 地点の海底の地形断面図を判定する。おおまかなプレート境界の分布を知っていれば難しくない。

線B（日本の南）は、フィリピン海プレートの下に太平洋プレートが沈み込む「セバまる境界」を横切るため、この境界に沿って形成された深い海溝（伊豆・小笠原海溝）が見られる。このため③に当てはまる。

①は線C（オーストラリア大陸の北）。水深 200m 未満の大陸棚が広がっている。

②は線D（ハワイ諸島の北）。太平洋プレートの中央部であり、大洋底が広がる。

④は線A（アイスランド島の南）。ユーラシアプレートと北アメリカプレートの間の「広がる境界」に沿って海底火山の連なる海嶺（大西洋中央海嶺）が形成されている。

問2 正解は⑤

海氷に覆われにくい海域を判定する。暖流の影響が及ぶ代表的な海域の理解から考えたい。

Kは、暖流の北大西洋海流が流れ、比較的暖かい海域である。このため、スカンディナ비아半島の西岸は緯度の割に温和で、北極圏にも不凍港（ナルヴィク・ハンメルフェストなど）が存在する。よって海氷に覆われにくい。

Mは、暖流のアラスカ海流が流れ、比較的暖かい海域である。ヨーロッパ同様、沿岸部には冬も温和な西岸海洋性気候が分布する。

Jの海域（グリーンランド海）では、グリーンランドの氷床（大陸氷河）に由来する海氷が多く、Lの海域（オホーツク海）では、アムール川から流入する淡水の影響で塩分濃度が低くなり、海氷が発達する。流水が北海道沿岸にも到達することで知られる。

問3 正解は④

4 地点における気温の年較差と降水量の季節変化を示すグラフを判定する。

地点エ（ニューヨーク）は、大陸東岸にあたり気温の年較差が大きく、温暖湿潤気候（Cfa）に属し年中湿潤である。よってグラフSに該当する。

地点ア（アテネ）はステップ気候（BS）、地点ウ（サンフランシスコ）は地中海性

気候 (Cs) に属し、ともに夏乾燥・冬湿潤となるが、大陸西岸にあって気温の年較差が小さいウがグラフ P に該当し、よってアはグラフ Q に該当する。(なお、地中海地方の大部分はもちろん地中海性気候区であるが、近年更新された気象データのわずかな変動によって、アテネはステップ気候区に属することになった。ただし、夏乾燥・冬湿潤という傾向に変化があるわけではないから、学習上はアテネも地中海性気候と考えて差し支えない)。

地点イ (トルクメンバシ [トルクメニスタン]) は内陸の砂漠にあたり、気温の年較差が大きく降水量が極めて少ない。よってグラフ R に該当する。

問4 4 正解は③

ヴェネツィア周辺の海岸地形に関する用語を判定する。

- ③ りくけいとう 陸繋島とは、沖合の島が砂州によって陸地と繋がったものである。一方、クの地形は、河川が運搬した砂泥が堆積してできた鳥趾状三角州のような地形といえる。潟湖内部は沿岸流などによる侵食作用が弱く、河川の運搬・堆積作用が上回って鳥の足跡のように自然堤防が海側に突き出る。
- ① 砂州とは、さし 砂嘴がのびて海域を区切るようになったものである。砂嘴は沿岸流などによって砂礫が細長く堆積して形成され、先端は沿岸流によって湾曲している。
- ② 潟湖 (ラグーン) とは、砂州によって外海と区切られた水域である。
- ④ ヴェネツィアは干潟の上につくられた人工的な都市であり、ゴンドラを用いた水上交通がさかんな「水の都」として知られる。

問5 5 正解は②

自然災害に関する地域別の各種指標を示すグラフを判定する。

X はアジア。アジアは地理的範囲が広く、自然災害の発生件数はそれに比例して多い。また、人口密度が高いので件数に比べて被災者数の割合が著しく高い。

Y は南北アメリカ、Z はアフリカ。両者は発生件数では大差がないが、経済水準の低いアフリカでは被害額の割合が極めて小さい。

問6 6 正解は④

火山防災マップの読み取りに関する文章の正誤を判定する。①の判定に注意したい。

- ④ 誤文。地点セは土石流の予想到達範囲だけでなく、火砕流本体の予想到達範囲にも含まれている。よって、火砕流の被害を受ける可能性は高い。
- ① 正文。防災マップ (ハザードマップ) とは、自然災害の被害発生を予測し、その範囲などを図示したものである。予測である以上、図示された範囲以外が被災する可能

性がある。特に火山灰の降灰は、その時の風向きによって大きく被災範囲が変わりうる。

図示された範囲はあくまでも「年間に最も多い風向の場合」における予測である。

- ② 正文。地点シは土石流の予想被災範囲に含まれる。
- ③ 正文。地点スは火砕流による熱風の予想到達範囲に含まれる。

第2問 資源と産業

問1 7 正解は④

日本の農業に関する文章の正誤を判定する。いずれの文も教科書で扱われている内容だが、日常の生活の中でも気づきたい。

- ④ 誤文。輸送の高速化や保存技術の発達が生鮮野菜の輸入を容易にさせている。また、主要な輸入生鮮野菜であるたまねぎ・かぼちゃ・にんじんなどは日持ちがよく、鮮度の維持はそれほど困難ではない。生鮮野菜の輸入量は1990～2000年頃まで高い伸び率で増加したが、それ以降は増減を繰り返して停滞している。しかし、その主な理由は鮮度ではなく、主要輸入相手先である中国の野菜において残留農薬の安全性が問題となったからなどである。
- ① 正文。大規模営農を行う中核的な担い手となる農家を重点的に支援している。
- ② 正文。トレーサビリティ（生産履歴追跡）制度は、BSE（牛海綿状脳症）感染牛が確認されたことをきっかけに導入された。
- ③ 正文。日本では遺伝子組み換え作物を用いた食品には、その表示が義務付けられている。

問2 8 正解は②

世界の地域ごとの農林水産業に関する指標を示すグラフを判定する。アジアの判定は容易である。

アジアは②。アジアとアフリカは農林水産業従事者の割合が高い（アジアは49.3%、アフリカは52.4%〔2013年〕）。また、労働集約的な自給的農業が中心となるため、農林水産業従事者1人当たりの農地面積は極めて小さい。しかし、中国・インド・東南アジア諸国など人口の多い新興工業国の多いアジアは、GDPに占める農林水産業の割合はアフリカより低くなる。よってアジアは②に該当する。

問3 9 正解は③

バイオマスエネルギーに関する文章の正誤を判定する。バイオマスエネルギーとは、生物由来のエネルギー全般を指す。

- ③ 誤文。発展途上国では電気やガスなどの普及が遅れているため、森林を伐採した薪

炭材を日常のエネルギー源として一般的に使用している。また、家畜の糞を乾燥させてエネルギー源とするものもある。これらもバイオマスエネルギーの利用例である。

- ①・④ 正文。樹木や農作物などの植物はその成長時に二酸化炭素（ CO_2 ）を吸収しているので、木くずなどの燃焼によって二酸化炭素を排出しても、トータルでは大気中の二酸化炭素量を増やさない。これをカーボンニュートラルという。
- ② 正文。バイオマスエネルギーの一種であるバイオエタノールの原料として、アメリカ合衆国などではとうもろこしが使用されている。

問4 10 正解は②

4か国の資源と産業に関する統計表を判定する。

ドイツは②、日本は①。ドイツと日本は自動車産業など国際競争力の高い製造業が発達しており、他の2国に比べ鉱工業就業人口の割合が高い。このうち、日本は石油・石炭・天然ガスなどのエネルギー資源のほぼ全量を輸入に依存しており、エネルギー輸入依存度が著しく高い①に該当する。一方、石炭や各種の新エネルギー（バイオディーゼル・風力・太陽光など）の生産があるドイツは②となる。

イギリスは③。北海油田における石油・天然ガスの生産により一定程度のエネルギー自給率を保っている。また、世界最大級の金融センターであるロンドンを背景にした金融サービス業を中心に第三次産業の占める割合が高く、鉱工業就業人口の割合は比較的低い。

オーストラリアは④。石炭・LNGなど、4か国中、唯一のエネルギー純輸出国である。一方、人口規模が小さく国内市場が狭いため製造業は振るわない。鉱業は盛んだが、大規模で機械化された生産が行われており、就業人口はわずかである。

問5 11 正解は④

石炭の需給・貿易に関する統計地図を判定する。東進2016年度第1回2月センター試験本番レベル模試において、ほぼ同様の問題が出題されている。

生産量はイ。世界最大の生産・消費国である中国の割合が高いアカイに絞った上で、資源の乏しい日本が上位国に含まれないイを選択する。

輸出量はウ。中国は製鉄用やエネルギー資源として国内消費量が極めて大きく輸出余力がない。一方、国内消費が少ない生産国であるインドネシアやオーストラリアの割合が高くなる。

消費量はア。日本が上位国に含まれていることが決め手となる。

問6 12 正解は④

3つの工業都市周辺の工業地域に関する説明文を判別する。いずれも各国を代表する工業地域の中心であり、基本レベルの地名である。

デトロイトはキ。五大湖の水運、ピッツバーグの鉄鋼業、アパラチアの石炭、フォードシステムによる分業とベルトコンベアによる大量生産などが、代表的な自動車工業都市を示唆する。

バンコクはク。1990年代に東南アジアにおける自動車製造の拠点となったタイの首都である。「外国からの投資による工業化」が新興工業国の輸出指向型の工業化を表している。

ロッテルダムはカ。「港湾施設」とはユーロポートのことである。ヨーロッパでは内陸資源と結びついた工業地域が資源枯渇によって衰退し、輸入資源に依存する臨海部が成長した。

第3問 都市・村落と生活文化

問1 13 正解は②

世界の4都市における住宅景観を示す写真をもとに、文章の正誤を判定する。しかし、文章だけでも判定が可能である。

- ② 誤文。ロサンゼルスのようなアメリカ合衆国の大都市都心部は、土地利用度を高めるために高層建築物が林立する。都心周辺（インナーシティ）の集合住宅では、住環境の悪化から富裕層・中間層が郊外に流出し、貧困層・高齢者が取り残されて移民が流入する。写真のような庭付きの一戸建てが見られるのは主に郊外である。
- ① 正文。モスクワでは、社会主義のソ連時代に労働者向け集合住宅が計画的に供給された。
- ③ 正文。経済特区に指定されたアモイでは、急成長に応じて無秩序な開発が進んだ。
- ④ 正文。ヨーロッパの古い都市では、歴史的な都市景観が保全されるケースが多い。

問2 14 正解は④

都市や村落の成り立ちに関する文章の正誤を判定する。歴史的な背景を前提にした設問だが、問題の難易度は高くない。

- ④ 正文。マンチェスターはイギリス西部（ランカシャー地方）の綿工業都市で、産業革命発祥の地である。エッセンはドイツ北西部（ルール地方）の製鉄都市である。ライン川の水運とルール炭田の結合により鉄鋼業が発達したが、近年は環境産業やハイテク産業へ転換した。
- ① 誤文。古代の日本における計画都市である平城京や平安京は、「放射・環状」ではなく「格子状（碁盤目状）」の街路網を持つ。

- ② 誤文。堺などの自由都市は近世に入り解体された。江戸幕藩体制下で都市の自治権は認められず、体制維持のための参勤交代制に対応して街道沿いには宿場町が成立した。
- ③ 誤文。タウンシップ制のもとでは、開拓のため 1 戸ごとに広大な土地が割り当てられたため、散村が形成された。

問 3 15 正解は④

人口分布や経済水準の国内格差に関する各国統計を判定する。指標の意義を正しく把握する必要がある、やや難しい。経済水準の地域間格差は先進国で低く、発展途上国で高い。

オーストラリアは④。内陸に砂漠が広がり、先住民アボリジニの希薄な人口分布のみがみられた「新大陸」を、イギリス系移民が開拓して国家が形成されたが、イギリス系白人は温帯気候の沿岸部に都市を建設して集住したため、人口偏在の度合いが極めて高い。

オランダは②。狭いうえに全体的に低平な国土をもつ先進国であり、1 人当たり総生産の国内地域間格差は小さい。

南アフリカ共和国は①。三権（立法・行政・司法）の機能が 3 都市に分置されるなど、大都市が国土に分散しており、人口の偏在度合いは小さい。

メキシコは③。首都メキシコシティは 2 位都市との差が大きいプライメートシティ（首位都市）として知られる。したがって人口偏在度はやや高い。一方で、新興工業国であるため発展する商工業地域と、立ち遅れた農業地域との経済格差は大きいと考えられる。

問 4 16 正解は⑤

東京圏の人口動態に関する統計地図を時代順に並べ替える。カとキの判別が決め手となる。

1985 ～ 1990 年はク。バブル景気の時代であり、金融業・不動産業・サービス業などが成長し、産業の面では東京一極集中が進んだ。しかし、オフィスビルが立ち並ぶ都心部の地価が急騰し、都心部の住民が郊外に流出して、ドーナツ化現象が明確となった。地方からの東京圏への流入人口も周辺部が吸収した。よって東京都心部で人口が減少し、周辺県で人口が増加しているクを選ぶ。

1995 ～ 2000 年はカ。バブル経済の崩壊後に都心部の地価が低下し、再開発が進んで高層マンションなどの住宅供給が増加すると、人口の都心回帰が始まった。

2005 ～ 2010 年はキ。都心回帰現象は続いているが、全国的な少子高齢化に伴う人

口減少は東京圏の周縁部にも迫っており、カに比べて減少区域が拡大しているキが該当する。

問5 17 正解は③

日本の老年人口統計に関する文章の正誤を判定する。前提知識はほぼ不要であり、与えられた情報から判断可能である。しかも誤文が明瞭であるため、確実に得点したい。

- ③ 誤文。老年人口 1,000 人当たりの養護老人ホーム定員数の地図を見ると、東京・大阪・名古屋の三大都市圏は低位となっている。
- ① 正文。老年人口率は三大都市圏が低位である。地方圏の方が高齢化は深刻である。
- ②・④ 正文。老年人口の増加率は三大都市圏や北海道で高位となっている。これは高度経済成長期に流入した第一次ベビーブーム世代（団塊の世代）が高齢期に入ったためである。このため三大都市圏でも今後の高齢化と人口減少が懸念されている。

第4問 中国

問1 18 正解は④

中国の3地点における地形に関する説明文を判定する。気候的な特徴も考慮する。

アはB地点（ホワンツー〔黄土〕高原）。黄河の流域に位置し、内陸の砂漠から風で運ばれたレス（黄土）が堆積している。なお、風積土レスには砂漠由来のものと氷河由来のものがある。

イはC地点（コイリン〔桂林〕）。タワーカルストとは、石灰岩が雨水・地下水による侵食（溶食）を受けて、細長い塔状・円錐状の山になったものである。コイリンではタワーカルストの奇観が重要な観光資源となっている。

ウはA地点（ヒマラヤ山脈）。モレーンとは、氷河によって削られた岩石や土砂が堆積した地形である。標高の高い山岳では万年雪が押し固められて山岳氷河が発達する。

問2 19 正解は③

中国4都市のハイサーグラフを判定する。②と③のグラフの判別が決め手となる。ハイサーグラフは毎年のように出題されるので読み方に慣れておきたい。

M（クンミン〔昆明〕）は③。4都市中で最も低緯度に位置するが、標高が高く年中温和である。中国南部には温暖冬季少雨気候（Cw）が分布し、さらに低緯度側に分布するサバナ気候（Aw）同様に冬季に乾燥する。

J（ウルムチ〔烏魯木齊〕）は④。4都市のうち、最も高緯度で内陸部に位置するため、気温の年較差が大きく、年中乾燥している（ただし、ウルムチの気候区分は亜寒帯湿潤気候〔Df〕である）。

K (シェンヤン〔瀋陽〕) は①。J 同様に高緯度で気温の年較差は大きいですが、大陸東岸にあって季節風の影響を受けるため、夏多雨・冬少雨となる。シェンヤンは、特に冬のシベリア高気圧による乾燥が強い亜寒帯冬季少雨気候 (Dw) に属する。

L (フーチョウ〔福州〕) は②。低緯度かつ沿岸部にあるため、4 地点の中では最も高温多雨となる。台湾島から L 付近～シャンハイ (上海) にかけて、日本と同じ温暖湿潤気候 (Cfa) が分布している。

問 3 20 正解は③

中国における農作物作付面積の統計地図を判定する。個々の省名や数値などのデータから判断するのではなく、大まかな傾向の理解があれば難しくない。

カは茶。茶は高温多雨の気候と、水はけの良い土地に適する。そのため、中国では生産が南部の高原地帯 (雲南省など) に集中する。

キはイモ類。イモ類 (中国では主にじゃがいも〔馬鈴薯〕やさつまいも〔甘藷〕) は乾燥に強く、やせた土地でも育つため、米や小麦などの穀物の栽培に向かない土地で栽培される。中国では西部内陸ほど乾燥するため、そこがイモ類の主産地となる。

クは野菜。鮮度を要求される野菜の生産は、輸送条件が有利な大都市の近郊でさかんになる。また、近年では日本向けの輸出も盛んである。このため、大都市が集中し、日本にも近い東部沿岸 (山東省など) での生産が多い。

問 4 21 正解は④

大気中の硫黄酸化物濃度を示した統計地図をもとに、中国の大気汚染に関する文章の正誤を判定する。

- ④ 誤文。「貿易風」は偏西風の誤り。この地域の上空には、中緯度高圧帯から高緯度側へ吹き出す西風の偏西風 (ジェット気流) が強く吹いている。貿易風とは、中緯度高圧帯から低緯度側に吹き出す東風である。
- ① 正文。東北～華北地方では、石炭資源と結びついた重工業が早くから発達した。
- ② 正文。亜寒帯に属する東北地方の北部は、冬の寒さが厳しい。P や Q の地域では、工場施設や家庭の暖房施設などが老朽化し、性能が低いいため、不完全燃焼による硫黄酸化物の排出が多い。
- ③ 正文。華南地方の工業化は製造業が中心で、資源を大量消費する基礎素材型工業の割合は小さい。また、温暖な気候で暖房の使用は少ない。

問 5 22 正解は④

シャンハイ〔上海〕市とチンハイ〔青海〕省に関する文章の正誤を判定する。やや細かい知識の有無が問われている。

- ④ 正文。西部大開発の一環として 2006 年にチンツァン〔青蔵〕鉄道が開通すると、4,000m 以上の高地を走る路線が人気となり外国人観光客が増加した。また、中国政府は鉄道建設によって、漢民族に不満を持つ少数民族チベット人との融和を図っている。
- ① 誤文。農村戸籍を持つ者の都市定住は制限されており、農村からの出稼ぎ労働者は十分な社会保障を受けることができない。このため、子どもを農村に残すことが多い。
- ② 誤文。都市部ではテレビ・冷蔵庫・洗濯機などの世帯普及率はほぼ 100%に達しており、携帯電話はほぼ 1 人 1 台の水準である。近年では自家用車も普及しつつある。
- ③ 誤文。中国最大の油田は、一般的にはターチン〔大慶〕油田（^{ヘイロンチアン}黒竜江省）とされる（ただし、近年は施設の老朽化や資源の枯渇などによって生産量は減少している）。チンハイ省にも油田はあるが、沿岸部まで到達するパイプラインは存在しない。西部大開発の「西気東輸」政策では、シンチヤンウイグル自治区の天然ガスをパイプラインで沿岸部のシャンハイ付近まで輸送している。

問 6 23 正解は①

少数民族に関する文章の正誤を判定する。教科書の記述に基づいた作問なので、日常の丁寧な学習が必要である。

- ① 誤文。中国政府は少数民族の文化を尊重し、民族言語による学校教育を行っている。ただし、同時に標準語の普及も進めており、少数民族の側から見れば文化侵略の側面を持つ。標準語が話せなければ少数民族の就業機会は事実上制限される。
- ② 正文。少数民族居住地域の開発が進むと、漢民族の入植が強まる。
- ③ 正文。信仰ではチベット族やモンゴル族のチベット仏教、ウイグル族やホイ族のイスラームなどが知られる。
- ④ 正文。少数民族が居住する地域は観光地化が進む一方、観光客の増加によって環境破壊の問題が生じている。

第5問 スペインとドイツ**問 1** 24 正解は③

スペインとドイツの標高と年降水量の分布グラフの組合せを判定する。目新しい形式だが、内容は平易である。

ドイツの標高分布はイ、年降水量分布は A。ドイツの国土は北が低く南が高い。北部は北海・バルト海に面する北ドイツ平原が広がり、南部はアルプス山脈の北麓に当

たる。また、ドイツは西岸海洋性気候区（Cfb）に属し、年間を通して一定の降水がある。

スペインの標高分布はア、年降水量分布はB。イベリア半島の北緯 40 度付近には高原が広がっている。スペインは地中海性気候区（Cs）に属し、夏の乾燥が厳しく、年降水量も少ない。乾燥する高原地帯をメセタとよぶ。

問2 25 正解は②

スペインとドイツの農作物産地の分布に関する統計地図を判定する。ヨーロッパにおける農作物の栽培北限は過去にも出題されている（例：2006 年度地理 A 本試験第 4 問）。

ブドウは②。夏の乾燥に強いブドウはワインの原料として地中海地方でさかんに栽培されているが、その栽培北限はドイツ南部まで及んでおり、ライン川沿いの河谷地帯で栽培されている。

オリーブは④。硬葉樹の一種であるオリーブは、果実・油脂原料として地中海沿岸部で栽培されており、その栽培北限はドイツに及ばない。

小麦は①。小麦はヨーロッパ各国で主食用に広く栽培されている。

ライ麦は③。黒パンの原料となるライ麦は寒さに強く、ヨーロッパ北部で栽培がさかんである。ドイツの他、ロシアやポーランドが主産国である。

問3 26 正解は②

スペインとドイツの都市システム等に関する統計を判定する。題意の読み取りに時間がかかる上、内容的にも正確な理解を求められるため、難易度の高い設問となった。

ドイツの都市数はカ、日系現地法人数はE。ドイツは連邦制国家であり、首都ベルリンだけでなく、ボン（旧西ドイツ首都）・ミュンヘン（南部の中心）・ハンブルク（北部の中心）・フランクフルト（金融の中心、航空交通の拠点）・デュッセルドルフ（商業の中心）・ケルン（文化の中心）など、多くの都市に中枢管理機能が分散している（多極分散型）。ただし、人口分布でみると経済水準の低い旧東ドイツ（東西統一前の社会主義国）地域で低く、旧西ドイツ地域で高いという偏在性をもつ。北東部の旧東ドイツ地域は 4 分割の図では右上にあたり、ここに 2 都市（ベルリンとドレスデン）しか分布しないカがドイツを示している。日系現地法人では、旧東ドイツ地域の人口規模 1 位都市であるベルリンには少ないが、2～5 位都市にはまんべんなく分布する E が多極分散型のドイツに適する（4 位ケルンは文化的な機能が中心なのでやや少ない）。なお、5 位までの日系現地法人数の合計が D と同程度で、両国の経済水準や日本との貿易関係を考えると E の数字が少ないように思える。実際、ドイツの日系現地法人の総数はスペインよりもドイツの方が圧倒的に多いが、人口順位 7 位のデュッセルドル

フに日系現地法人が集中しており、その数は 300 社以上となっている。この事実も多極分散型の特徴をよく表しているといえよう（外国企業の多くが東京に集中する一極集中型の日本と対比するとよい）。

スペインの都市数はキ、日系現地法人数は D。スペインでは国土の中心におかれた首都マドリードと、東岸のバルセロナの 2 大都市に諸機能が集中している。

問 4 27 正解は③

E U（欧州連合）4 か国の貿易関係を示す図中の国名を判定する。地理的な位置関係も考慮して決めやすいところから決めていく。この形式はセンター試験頻出である。

4 か国中、経済水準が高く貿易額も大きいドイツとフランスがサまたはシである。このうち他のどの国に対しても輸出超過（輸出額＞輸入額）となっているシは E U 最大の工業国で自動車などの輸出が盛んなドイツであり、輸入超過国のサがフランスである。残る 2 か国のうち、サ（フランス）との貿易額が大きいスが、フランスに隣接するスペインであり、セが 4 か国中最も経済水準の低いポルトガルである。

問 5 28 正解は①

スペインとドイツの移民・外国旅行に関する文章の正誤を判定する。

- ① 誤文。南アジアはイギリスの植民地としての歴史を持ち、インドでは英語が準公用語となっている。したがってスペインとの文化的共通性は薄い。スペインの移民の主な出身国は北アフリカのモロッコ、ラテンアメリカのエクアドル・コロンビア・アルゼンチンなどの旧スペイン植民地であり、これらの国ではスペイン語が公用語となっている。ラテンアメリカ諸国では宗教もスペインと共通するカトリックが信仰されている。また、同じラテン系民族が居住する東ヨーロッパのルーマニアからの移民も増えている。
- ② 正文。ドイツは高度経済成長期に協定を結んで、トルコからの労働力を正式に受け入れた。
- ③・④ 正文。ドイツやイギリス、北ヨーロッパ諸国は、南ヨーロッパ（特にスペイン・フランスなどの地中海沿岸のリゾート地）に温暖な気候を求める観光客を多く送り出している。

第 6 問 地域調査（壱岐島〔長崎県壱岐市〕）

問 1 29 正解は①

20 万分の 1 地勢図の読図に関する文章の正誤を判定する。ごく基本的な内容である。

- ① 誤文。例えば島の中央にある「壱岐市」の文字のそばに 100m の等高線が描かれてい

る。その北西「亀石」の北に 139m の三角点がある。さらに島南部の「岳ノ辻」の南には 213m の三角点がある（島の最高地点）。

- ② 正文。沖積平野は河川の運搬・堆積作用によって形成される。
- ③ 正文。リアス海岸とは河川の侵食による V 字谷が、沈水（陸地の沈降や海面の上昇）によって岬と入江（おぼれ谷）が連続するようになった「のこぎりの歯」のような海岸線である。長崎県にはリアス海岸が多く、北海道に次いで海岸線の長い都道府県である。
- ④ 正文。海食崖とは海波の侵食で作られる海岸の崖である。赤瀬鼻は壱岐対馬国定公園の代表的な景観の一つでもある。

問 2 30 正解は③

新旧地形図の読図に関する文章の正誤を判定する。

- ③ 正文。1926 年には「芦辺」と「瀬戸」を結ぶ破線が描かれており、これが渡舟の航路である。2006 年には港の北岸にフェリー発着所があるものの、破線の向きから考えるとこれは渡舟ではなく、島外（福岡や対馬）と結ぶ航路である。港の南北は新たに架けられた「芦辺大橋」によって結ばれており、渡船の必要性はなくなっている。
- ① 誤文。2006 年においても、芦辺から当田舩へ向かう道路はいくつかの他の道路と交差はしているが寸断されてはいない。
- ② 誤文。確かに南北両岸の一部は陸地化されており、北岸には田の記号（田）がみられるが、南岸は埠頭が並ぶなど港湾として整備されており、耕地とはなっていない。
- ④ 誤文。確かにダムは建設されているが、発電所の記号（⚡）や送電線の記号（—⋮—）はみられない。

問 3 31 正解は①

地形図上の 3 地点における景観を示す写真を判定する。

A はア。平坦な地形に整然と水田が広がり、遠方に低い山地が見える景観である。

B はイ。圃場整備が行われていない畑や荒地が間近に見える景観である。

C はウ。山地に挟まれた谷間の狭い平地に水田が営まれている景観である。

問 4 32 正解は③

模式図で示された民家を囲む樹林の意義を説明した文章の正誤を判定する。図中に方位記号が描かれている意味を考えたい。

- ③ 正文。樹林は母屋や牛舎・畑の北側に形成されている。よって冬季の北西季節風を防ぐための防風林であると考えられる。このような樹林を一般的に屋敷林という。壱

岐島では海上から直接吹き寄せる強い北風から家屋などを防ぐ必要があった。

- ① 誤文。竜巻は積乱雲の下の一一定の条件下で生ずる渦巻き状の突風である。家屋の一方に樹林を形成しても竜巻の被害を防ぐことはできない。
- ② 誤文。フェーン現象とは、高い山を越えた風が吹き下ろす際に高温・乾燥となる現象である。壱岐島にはこのような現象を引き起こす高い山が存在しない。
- ④ 誤文。やませとは主に東北地方の太平洋側に吹き付ける局地風で、夏の低温の北東風が冷害を招く。壱岐島には関係がない。

問5 33 正解は④

壱岐島の漁業に関する会話文中の空欄を補充する語句を選択する。ごく基本的な内容である。

力「暖流」。壱岐島の付近には、日本海流（黒潮）から分かれて東シナ海から日本海に流れる暖流の対馬海流が流れている。

キ「小さい」。壱岐市における1経営体当たりの漁船数を見ると、1隻が大部分を占めており、全国と比べても2隻以上の経営体の割合は極めて少ない。

問6 34 正解は①

壱岐市を含む長崎県の市町における3つの指標を示す統計地図を判定する。指標の意味を考えながら丁寧に判断したい。

居住する市町内で買い物をする割合はE。長崎市のような人口の多い市には多くの商店が立地するため地元での買い物で事が足りる。しかし、その周辺の人口規模の小さい市町では商店が少なく、家具や電気製品などの買い回り品を中心に居住地以外の都市部に出かけないと買い物ができない。ところが、対馬・壱岐・五島列島などの離島では商店は少ないものの、日常的に他の市町に買い物に出かけることは時間的・費用的な制約から困難なため、逆に居住市町内での買い物が多くなる。

小学校の複式学級率はF。人口密度の高い都市部で低く、過疎と高齢化により児童数が少ない離島や周辺部で高くなる。

人口1,000人当たりの医師数はG。過疎化した地域では病院の経営は困難になるため、Fとは逆に都市部で高く、離島・周辺部で低くなる。

問7 35 正解は③

自然災害や防災についての調査の目的と方法に関する文章の正誤を判定する。

- ③ 誤文。AMeDASは「Automated Meteorological Data Acquisition System」の略で、自動地域気象観測システムのことである。降水量、風向・風速、気温、日照時間の観

測を自動的に行う観測所が全国1,300か所に設置されている。このデータを利用すれば、気象状況を細かく監視することで気象災害の防止や軽減に役立てることができるが、過去の災害の被災状況を検索することはできない。

- ① 正文。気象庁のウェブサイトには過去の様々な観測データが公開されている。
- ② 正文。郷土史などに関する文献は、地元の公立図書館や郷土資料館で探すとよい。
- ④ 正文。津波の到達範囲は、海岸沿いの地形によっても影響される。